



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

あけましておめでとうございます。お正月休み、ゆっくりお過ごしになりましたか？

お正月といえば、雑誌の新年号についてくる豪華な付録が楽しみだったという方も多いのではないのでしょうか。今月号は、「お正月のふろく特集」といたしまして、双六やかるとなど、少女雑誌に付いていたお正月ふろくの定番の品々を中心にご紹介いたします。本年も、皆さまにとって「少女雑誌の部屋」が心落ち着ける場であるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

お正月とふろく

かつてのお正月のふろくの定番といえば双六、かるた、カレンダー、日記帳など、ほとんどが紙もの。昭和の初め頃までは現在のように毎月ふろくが付いていたわけではなく、新年号にだけ付けられる特別なアイテムでした。当時、少女雑誌は高価だったため、自宅用として毎号買ってもらえるのは裕福な家庭の子女に限られていました。それでも、年に一回、お正月号だけは特別に買い与えられるという家庭も多かったそうです。ふろくの中には、名だたる画家が絵を描いていたり、箔押しが施されていたりと、紙製品でありながらクオリティが高く豪華なものもありました。当時の少女たちが大切に手元に置いていたからこそ、今こうして当館のコレクションとして残っているのだと思うと感慨深いものがあります。



当館所蔵ふろくコレクションより～紙ものふろく3品～



少女出世双六（絵／鍋木清方）

『少女世界』 明治41（1908）年1月号ふろく



女性の幸せは結婚にあると言われていた時代らしいコマ設定で、上がりは「嫁入り支度」

小倉百人一首かるた（絵／村上三千穂）

『少女の友』 昭和9（1934）年1月号ふろく



かるた1枚のサイズは縦4cm、横3cmと小さいながらもクオリティの高い一品。

啄木かるた（絵／中原淳一）

『少女の友』 昭和14（1939）年1月号ふろく



石川啄木の短歌に中原淳一が絵をつけた抒情あふれるかるた。